

# あふける気迫。青年部は81への先頭に立ちよ

第三回全支部活動者会議は、12月20〜21日、各支部青年部60名を結集して開催された。第一日目は、長田副青年部長による主催者を代表しての開会のあいさつの後、勤労千葉を代表して、布施組織部長より、81・3闘争をめぐる状況と方針、闘いの展望についてあいさつを受けた。つづいて、田中青年部長より、第三回全支部活動者会議のちとるべき課題について提起を受け、六〇年三池闘争の記録映画を観賞した。

## 81・3へむけ闘いの基調を確認

第二日目は、歌唱指導の後、繁沢書記長より、「81・3ストライキへ、青年部総決起体制を築け」と題する基調報告が提起された。基調報告は、第一に勤労千葉が「81・3をかってないストライキをもって闘う」と方針を提起したことにより、当局、権力および、それに連動した動労「本部」反動分子の敵対策動が強まる一方で、国労、社会党、総評をはじめとする各界の流動化がはじまるなど、二期工事阻止、ジェット延長反対の81・3決戦の火ぶたはすでに切られている。

第三に、81・3闘争勝利のための基軸は、「本部」革マル反動分子の闘争破壊・組織破壊をうちくなくすることにあること。9・22「小谷襲撃事件」や、10・30「革マル派学生襲撃事件」を、反謀略の名のもとに、動労運動の中にとりこむことをもって、動労を「革マル派より護」へファッシュ的・セクト的にひき廻している動労「本部」革マル反動分子を一掃し、動労大改革をかちとらねばならない。

第二に、軍事大国化へ向けて情勢は恐るべき勢いで進行している。しかし、労働者人民の怒りと闘いの気運はかつてなく高まっており、階級闘争の情勢は激動的にたまってきている。そうであるがゆえに81・3闘争が日本階級闘争全体にあたる影響力・意義は重大である。

## 熱のこもった講演に大きな共感

つづいて、軍事評論家の藤井治夫氏より、「戦争準備はここまできてきている」と題する講演が行われた。この講演のなかでは、実際に闘える自衛隊の完成と徴兵制や戒厳令の研究など国民に戦争協力を強制するための策動が着々と準備がすすんでいること、が具体的に明らかにされ、憲法改悪など現在の情勢は「軍国主義への転移期にある」と提起され、更に、「ソ連脅威論」のデタラメ性などがあはかれ、「有事にならない前に民衆

の連帯と民衆抵抗の砦を」 「戦争で殺されるより平和のために闘って死のう」と熱く訴えられた。昼食をはさんで午後からは、「81・3闘争はいかなる闘いか——労働運動の歴史から学ぶ」という労働運動研究家・高島喜久氏からの講演が行われた。高島喜久



「戦争準備はここまできてきている」熱く講演する藤井氏

男氏は、一九五〇年から総評労働運動を指導してきた豊富な教訓から、内灘闘争、日鋼室蘭の闘い、国鉄新潟闘争、三池闘争、日教組勤務評定反対闘争についてふれ、それぞれの教訓のなから、労働運動のあり方について「ひとりば万人のために、万人はひとりのために」ということをわすれたら労働運動は最後は闘えなくなってしまう。労働運動は三里塚の闘いから大いに学ばなければならぬ。81・3闘争は三里塚の農民のためにやる闘いであるばかりでなく、そのことが勤労千葉組合員ひとりひとりの、更には日本労働運動全体の利益につながるのだということを確認して闘いぬいてもらいたい」と訴えられ、大きな共感をよんだ。

青年部は、先頭に立つぞ！ 活動者会議は最後に、81・3へ向けた熱心な討論ののち、笠井常任委員からの行動提起、長田副青年部長のまとめの発言を受け、二日間の全過程を通じて、81・3闘争の意義と方針はあますところなく鮮明となった。 第三回全支部活動者会議の大成を足場に、成田、佐倉の両ジェット闘争拠点をつつみこみ、81・3決戦へむけ全青年部員が闘いの先頭に立つことを確認し、意気高くガンバロー三唱をもって終了した。



日本労働運動の発展をかけた高島氏